

製品名: CK16(6F6)マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM08855**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、0.5% 保護タンパク質、防腐剤として 0.02% 新型防腐剤 N、50% グリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	KRT16
別名	KRT16; KRT16A; Keratin, type I cytoskeletal 16; Cytokeratin-16; CK-16; Keratin-16; K16
遺伝子 ID	3868.0
SwissProt ID	P08779
免疫原	CK16 の合成ペプチド

背景

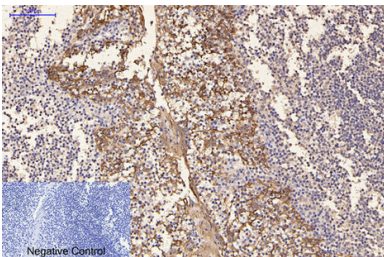
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ケラチン遺伝子ファミリーのメンバーです。ケラチンは、上皮細胞の構造的完全性

を担う中間径フィラメントタンパク質であり、サイトケラチンと毛髪ケラチンに分類されます。I型サイトケラチンの大部分は、異型ケラチン鎖が対になって配列した酸性タンパク質で構成され、染色体 17q12-q21 の領域に密集しています。このケラチンは、食道、舌、毛包など、多くの上皮組織においてケラチン 14 と共発現しています。この遺伝子の変異は、I型先天性爪厚化症、非表皮剥離性掌蹠角化症、および片側性掌蹠疣贅性母斑と関連しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: KRT16 遺伝子の欠陥は、先天性爪厚化症 1 型 (PC1) [MIM:167200]の原因の一つです。PC1 は、ヤダソン・レワンドフスキー症候群としても知られています。PC1 は、爪肥厚性爪異栄養症を特徴とする常染色体優性外胚葉性異形成症であり、爪甲拘縮 (爪の肥厚と湾曲の増加)、掌蹠角化症、毛包性角化増殖症、口腔白質角化症を引き起こします。手足の多汗症も通常認められます。、疾患: KRT16 遺伝子の欠陥は、片側性掌蹠疣贅性母斑 (UPVN) [MIM:144200]の原因の一つです。UPVN は、右手のひらと右足の裏の一部に局所的な皮膚の肥厚が生じるのが特徴です。、疾患:KRT16 の欠陥が非表皮剥離性掌蹠角化症 (NEPKK) [MIM:600962] の原因です。NEPKK は、口腔、性器、毛包の病変を伴う限局性の掌蹠角化症を特徴とする皮膚疾患です。、疾患:KRT16 と KRT17 は、子宮頸部の化生や癌、尋常性乾癬などの病的な状況でのみ共発現します。、質量分析: PubMed:11840567,その他:細胞骨格ケラチンと微小原線維ケラチンには、I (酸性) と II (中性から塩基性) (それぞれ 40~55 kDa と 56~70 kDa) の 2 種類があります。、類似性:中間径フィラメントファミリーに属します。、サブユニット :I 型ケラチンと II 型ケラチンのヘテロ二量体です。KRT16 は KRT6 異性体と会合します。TCHP と相互作用します。TRADD と相互作用する。、組織特異性: 毛包、爪床、粘膜重層扁平上皮、および基底上皮である口腔上皮および掌蹠表皮に発現する。また、汗腺管および乳腺管の管腔細胞にも存在する。、

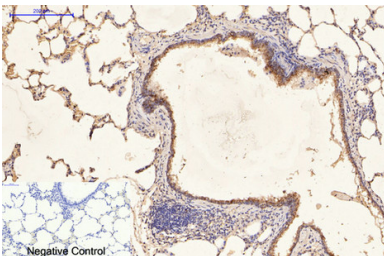
研究分野

シグナル伝達

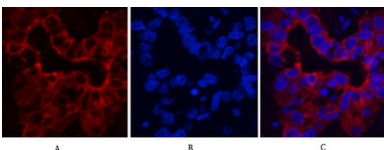
画像データ



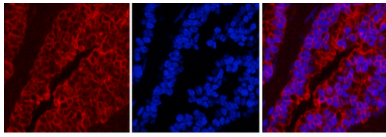
パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. CK16 モノクローナル抗体 (6F6) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



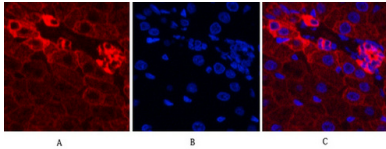
パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. CK16 モノクローナル抗体 (6F6) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



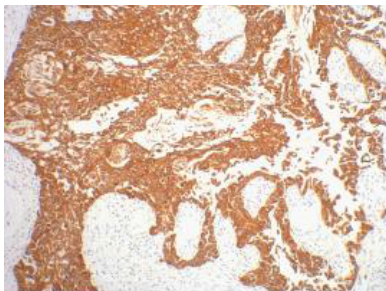
ヒト肝癌組織の免疫蛍光染色。1. CK16 モノクローナル抗体 (6F6) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3. 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, CK16モノクローナル抗体 (6F6) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット肝組織の免疫蛍光染色。1, CK16モノクローナル抗体 (6F6) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



1:200 に希釈したヒト食道癌組織の IHC 染色。